



WASEDA ALUMNI
SINCE 1885

早稲田大学ウリ稲門会

〒105-0001
東京都港区虎ノ門 5-1-5
メトロシティ神谷町5階
東京神谷町綜合法律事務所内
woori-tohmon@tkm-law.com

発行人：尹正淳
編集：編集委員会

第 32 号 INDEX

P1～4

2019年度

総会開催・新会長に尹正淳学兄

- 尹正淳新会長あいさつ
- 井上理事からの礼状
- 新幹事団紹介

P4～5

尹正淳 各地の同窓を訪ねて

【大阪】

【名古屋・岐阜】

P6

趙慶済学兄の著書出版を祝う会

P7

『呂運亨評伝』全4巻完結
編集後記

P8

会計報告

2019年在日早慶親善ゴルフ大会
実施要項

2019年度納涼会・奨学生証授与式開催案内

第5期奨学生を紹介し、迎え入れる会です。今回は懐かしの母校南門前 高田牧舎で開催することにいたしました。また当日は、昨年11月に発表された「元徴用工の韓国大法院判決に対する弁護士有志声明文」の呼びかけ人 殷勇基学兄に短い時間ではありますが、講演をしていただくことにしました。8月に往復はがきにて詳細はご案内いたします。みなさま、是非、ご参加下さい。

会長 尹正淳

記

於：高田牧舎（早稲田キャンパス南門前）

日時：2019年9月28日（土曜日）夕刻より

参加費はあらためてご案内します。もちろん在校生は無料です。

ウリ稲門会 ニュース

第 32 号

2019年7月20日発行

2019年度 総会開催・新会長に尹正淳学兄



新入学にまつわるイベントも一段落した2019年4月13日、雲ひとつない快晴の春の日に、早稲田大学ウリ稲門会は母校に隣接するリーガロイヤルホテル東京で総会を迎えることとなりました。

総会の冒頭、2年の会長任期を終える河相淳学兄が最後の会長挨拶に立ち、この間に会員のみなさまからいただいたご協力に対して感謝を表明しました。そして、金君夫・呉世一両顧問が議長団に選出されて議事はスタート。活動報告と会計報告の承認を経て河会長を始めとする幹事団が退任、新会長が選出される運びとなります。そして、前執行部から推薦を受けた尹正淳前副会長が満場の拍手に包まれ選任され、登壇して会長就任に際しての所信を表明しました（所信表明は後ページに掲載）。

総会終了後の懇親会は、尹新会長のあら

ためでの挨拶で幕を開け、続いて母校からの来賓、井上文人事事にご登壇いただき祝辞を頂戴しました。積極的に留学生を迎え入れた結果、この国でもっとも多くの外国籍学生が在籍する大学になったこと、加えてどんな女子大よりも女子学生の数が多く、日本最大の「女子大」になったこと、等々かつてより様変わりした母校の様子を伝えていただきました。いささか固かった雰囲気も金君夫顧問の乾杯のご発声の後はすっかり和らぎ、世代をまたがる同窓会の本領が充満します。お酒とともに久しぶりに顔を合わせる学兄の会話も進み、すっかり心持ち良くなった頃合いに山本ひかりさん率いるボサノヴァトリオのミニコンサート。山本ひかりさんも同じく早稲田の同窓生。残念な事に、機材のトラブルがあって会場の隅々まで本領が行き渡らない場面もありましたが、リオデジャネイロの風は軽やかに吹き抜けました。



宴は進み、韓国校友会より李賢儀名誉会長、慶應の同窓会であるコリア三田会の玄東實顧問、高麗大学同窓会の尹健人副会長からスピーチをいただいた後、会長を退任したばかりの河相淳学兄が新顧問として閉会挨拶に再登場。コーモアたっぷりに懇親会は締められ、恒例となった母校所沢総合事務センター

関口八州男事務長のエール交換で幕を閉じました。
当然のごとくに2次会となるわけですが、会場は同ホテルのセラーバー。これまたいつものごとく、ほぼそっくりそのまま移動し、過ぎゆく時間を惜しみました。



尹正淳新会長あいさつ

会長を務めることになりました、1972年第一政治経済学部卒業の尹正淳と申します。簡単に自己紹介をし、所信を述べたいと思います。

北関東の、人口が10万人くらいの地方都市で生まれ育った私は、高校3年に進級するころ、高校卒業後の自分の人生について考えるようになりました。

まだまだ民族差別の多い時代でした。在日韓国人である私がこのような小さな地方都市でどのような仕事につき、どのような人生を送れるのであろうか？まったく見当もつかず苦悩しております。

そこで「自分にはもっと時間が必要だ。自分の将来を見つめる時間が必要だ。」との結論に至り、大学に進学することを決意したのです。

私の父が早稲田大学の大的ファンでした。中学生に入る頃から、「お前は早稲田に行け、早稲田に行け」と繰り返し言い聞かされて育ちました。そこで自然に、早稲田大学が目標となり、早稲田大学に導かれて行ったのです。

大学に入ると、当時韓国文化研究会と朝鮮文化研究会というサークルがありました。韓国文化研究会の先輩が入れ替わり、立ち替わり、勧誘に来まして、自分たちと一緒に韓国の歴史、文化、言葉を学ぼうと誘われ、私は自然とその仲間に入って行きました。

それまでは田舎で自分が韓国人であることを隠しながら、通称名を使い、ひっそりと生活していたわけです。

それが身分を隠す必要もなく、本名を名乗り、同じような環境の中で生まれ育った日本各地から来た多くの同胞学生に会えるわけですから、どれだけ嬉しかったことでしょうか。私はくびき

から自分が解き放たれた喜びを感じました。

大学4年間では、これまで学ぶ機会がなかった朝鮮の歴史、文化に触れ、そして朝鮮半島からの早稲田大学への留学生の歴史にもふれました。

19世紀末以降、早稲田大学は朝鮮半島から多くの留学生を受け入れました。

当時アジアに最も開かれた大学が早稲田大学であったのです。

今年は二八独立宣言100周年、三一独立運動100周年に当たります。

二八独立宣言は日本の植民統治下、日本に留学した学生が中心になり日本の植民統治の不当を訴えた運動でした。その宣言文を起草したのが、早稲田大学に学んだ李光洙でありました。三一万歳独立運動において独立宣言書を起草したのも同じく早稲田大学に学んだ崔南善でした。



母校は他にも独立運動家、政治家、学者、事業家など、有為な人物を多数輩出してきました。

ウリ稲門会の会員の中にも、外国人で初めて芥川賞受賞作家となった李恢成学兄（61年文卒）、在日コリアンとして初めて国立大学（一橋大学）教授となられた朝鮮近代史の権威、姜徳相先生（60年卒）がいます。名前を挙げればきりがありません。

こうした有為な人物を多数輩出した早稲田大学に学んだということが私たちの誇りとなり、私たちの人生を常に支えてきたのではないのでしょうか？

正に早稲田大学は私たちにとって、「心のふるさと」なのです。同窓会は基本的に思想、信条、宗教、国籍を問わず、早稲田に学んだ、朝鮮半島にルーツを持つ者同士の親睦をはかる組織であります。

解放前に結成されたウリ同窓会は、解放後の1967年再建されましたが、祖国の分断体制がそのまま在日社会にも投影され、さらには同窓会活動にも影を落としました。

一時、ウリ同窓会と稲水会という二つの同窓会が併存する混乱期がありましたが、長年にわたる一本化の模索の結果、1998年3月に両組織が統合されて、ウリ稲門会として再スタートし、今年で21年目を迎えました。

幸い私の過ごした学生時代には韓国文化研究会というサーク

ルがあり、そのサークルを通じて、多くの先輩、後輩らと知り合うことができました。青春時代を共に過ごしたそうした友人、知人は何者にも変えられない宝であります。

しかし、その後、韓文研という文化サークルも無くなり、今入学してくる学生は同じ在日同胞学生と知り合う機会、場というのが少なくなってしまいました。

ウリ稲門会奨学金制度を設けたのも、在校生同士親しくなる機会を作り、先輩らとの交流の輪を広げて、同窓会の歴史・伝統を受け継いでほしいとの先輩らの考えからでした。

昨年は二人の先輩の追加寄付のおかげで奨学金が大幅に増え、今期から従来3名であった奨学生を5名に増やすことになりました。お二人の先輩の後輩を思う熱い気持ち、そして母校愛に感謝いたします。

母校早稲田大学、そしてウリ稲門会が私たち同窓生の「心のふるさと」として、多くの同窓生の親睦の場、後輩たちとの交流の場となりますよう、また、歴史ある同窓会の歴史を後世に繋いでいくためにも、各地の同窓生の皆さんと力を合わせ、素晴らしい会に育てて行くことではありませんか？

浅学非才の身でございますが、誠心誠意会長職に邁進いたしますので、会員の皆様のご支援、関係者の皆様のご指導、ご鞭撻を切にお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

井上理事からの 礼状



2019年4月吉日

早稲田大学校友会 ウリ稲門会
新会長 尹 正 淳 様

早稲田大学理事
井上 文人

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は、母校ならびに校友会のためにお力添えを賜わり、深く感謝いたしております。また新会長として貴会のご発展ならびに母校・校友会のためにご尽力いただけることに感謝申し上げます。さらなるお付き合いの程よろしくお願ひ申し上げます。
さて、ウリ稲門会総会・懇親会の際には、関口ともども、ひとかたならぬご歓待にあずかり、衷心より厚く御礼申し上げます。また、お土産まで頂戴いたしまして、恐縮に存じます。
いつもながら、幅広い世代の校友の皆様方のご出席に加え、学生も参加した、アットホームな雰囲気の中、手作りの構成はどれも素晴らしいです。重ねて御礼申し上げます。
本学は、「研究の早稲田」「教育の早稲田」「貢献の早稲田」を3本の柱に掲げ、研究、教育をさらに充実させてまいります。そして、学生を「たくましい知性」と「しなやかな感性」を兼ねそなえた日本はもろもろ世界で貢献するグローバルリーダーに育成し、『世界で輝くWASEDA』を実現してまいります。共に大学を育てるという視点から、精神的あるいは物質的な幅広いご支援、ご助力をいただければと存じます。
校友会では、校友会奨学金をはじめとする母校・在校生支援費は約2億6千万円にのぼり、より一層の支援に取り組んでいます。また、ご利用金額の0.5%が在学生の奨学金として大学へ還元される「早稲田カード」の奨学金累計は19億円を超えました。加えて、「早稲田カード」は一般カード本人年会費が無料となっております。貴会におかれましても、会員皆様方の校友会費納入促進や「早稲田カード」の購入促進にご協力をいただければ幸いです。
次善ながら、貴会ますますのご発展と貴台のご健康を心より祈念し、御礼の挨拶申し上げます。

敬 具

早稲田大学 〒169-8555 東京都新宿区戸塚町1-104

新 幹事団 紹介

顧問	梁直基
	姜徳相
	琴栄吉
	李善滄
	文一陳
	呉世一
	金君夫
河相淳	
会長	尹正淳
副会長	朴淳澈
	安昌煥
	崔相敦
	李起夏 (会計兼任)
幹事長	朱茂
副幹事長	徐富男
	柳宇徹 (デジタル担当)
監査	金博夫
	李宇海
ゴルフ部	部長 安昌煥
	副部長 康泰鎮 金明煥
青年部 (在校生対応兼任)	部長 朴魯善
幹事	邊彰三
	殷勇基
	趙宏済
	劉貴幸
	鄭一志
関西支部	支部長 康玟植
中部支部	支部長 車剛一
ソウル支部	支部長 金協一
	副支部長 李起夏
財政委員	梁直基
	琴栄吉
	金君夫
	徐東湖
	李春夫

(敬称略・順不同)



会長就任後、大阪在住の康玟植先輩に電話で会長就任のご挨拶をし、一度表敬訪問したい旨伝えたと、折角来るのであれば何人かに会って行きなさい」とご配慮いただき、5月12日午後1時から、鶴橋駅近くの「めいげつ」という焼肉店で大阪に住む同窓生数人と懇親会を持つことになりました。

初めてお会いする人がほとんどであったにもかかわらず、2時間半にわたり、和やかな雰囲気の中に、大変有意義な楽しい時間を持つことができました。この場には河相淳前会長も駆けつけてくれました。

康玟植氏、裴正彦氏の口からは学生時代に交流のあった多くの同窓生の名前が挙がりました。

具末諱 (60年卒政治)、権世顔 (60年卒経済・故人)、李相熙 (60年卒政治・故人)、李善滄 (60年卒政治)、李永燦 (60年卒経済)、辛宣浩 (61年卒商学、ロッテ辛格浩氏弟)、李恢成 (61年卒文学)、沈廣燮 (63年卒商学・故人)、金奎一 (64年卒文学・故人)
敬称略とさせていただきますが、皆さん懐かしいお名前です。

当時、朝文研と韓文研のふたつが存在していましたが、双方に出入りする学生もいたりして、個人レベルでは双方との交流が多少あったようです。

裴正彦氏からは、東京・恵比寿の李永燦氏の家で両親から食事をごちそうになったり、大変お世話になったと聞きました。「当時の恩をまだ返せないでいる。東京に帰ったら、その旨必ず伝えてほしい。」と語ったことが印象的でありました。

唯一面識のある金基弘氏は私の3年後輩になり、1年間しか学生時代が重ならないのですが、私の下宿に一度来た事があるらしく、下宿の場所、家主の名前、私が栃木県出身であること、下宿でマージャンをしたことなど、こちらがすっかり忘れていたことを正確に記憶していたことには大変驚かされました。彼は大学卒業後大阪に帰り、関西興銀 (旧大阪興銀) で活躍され、現在は会社を経営されています。50年ぶりの再会でありました。

李虎雄氏は九州小倉の出身で、78年卒の薛海潤氏、同じ九州出身である79年卒の崔相敦副会長らと同時期に学生生活を送ったとのこと。両親に経済的負担をかけたくないと国立大学を目指していたが、結局早稲田大学に入学することになり、新聞配達などのアルバイトをしながら、学校に通ったと苦学生であったことを語ってくれました。現在は大阪で会社役員をされています。

金恒勝氏は大学の卓球部で活躍され、その後卓球の指導者もされていたようです。現在、学校法人白頭学院で建国幼・小・中・高等学校の事



参加者は下記のとおりです。
康玟植：62年卒、理工・機械 (左側一番奥)
裴正彦：63年卒、政経・経済 (左側奥から二番目)
尹正淳：72年卒、政経・経済 (左側奥から三番目)
金基弘：75年卒、商学部 (左側一番手前)
河相淳：80年卒、教育 (右側一番奥)
李虎雄：78年卒、商学部 (右側二番目)
金恒勝：78年卒、文学部 (右側一番手前)
以上敬称略

務長として活躍されています。

多くの同窓生の名前が飛び交う中、懐かしい学生時代を振り返り、大変楽しい時間を過ごすことができました。これも80年代まで韓文研、朝文研という学生サークルがあったので、「集まり散じて」も縦・横のつながりがあったからではないかと思えます。

今はそうしたサークルもなく、大学当局もプライバシー保護のため、名簿を公開しなくなったために、今は同じ大学に通う在日学生同士が知り合える機会が少なくなっているのではないかと思ひ、残念です。ウリ稲門会がその接点の役割を果たせればとの思いを強くしました。大阪の同窓生の皆さん、またお会いしましょう。お元気で。



5月11日の京都における趙慶済氏の出版をお祝いする会、翌12日の大阪・鶴橋における大阪地区同窓生との懇親会に続き、6月は名古屋、岐阜の同窓生を訪ねました。

同期の趙承来氏 (72政経卒) とは5月11日の京都での趙慶済氏の出版記念会でも顔を合わせましたが、あまり話をする時間がなかったために名古屋で会うことを約束し、この日、名古屋駅まで出てきてもらいました。約3時間、互いの人生、家族のこと、亡くなった後輩 (故金明植君73年商卒、故趙正行君・74年政経卒) の思い出や同窓生の近況などを語りあい、旧交を温め再会を約して別れました。



その後、岐阜に1年先輩の全錫春氏 (71年教育卒) を訪ねました。全先輩と会うのは20年ぶりくらい。以前秋葉原の「万世」でウリ稲門会納涼会を開催した折に参加されて以来です。奥様 金聖淑さんは明大卒で、お会いするのは卒業以来なので、少なくとも47年ぶりで実に懐かしかった。御夫妻とも互いの人生、家族のことなど、さらには当時の諸先輩の方々の硬軟にわたる武勇伝、私が大学1年生の時、大学近くの下宿屋での大騒動 (本人はすっかり酔いつぶれて記憶にない) を聞き、大いに笑い、学生時代を偲び、実にたのしい時間を過ごさせていただきました。



趙承来氏、全錫春御夫妻、大変お世話になりました。お互い、健康に留意し、近々に再会いたしましょう。

趙慶済学兄の著書出版を祝う会



趙慶済学兄の著書『「在日」の相続法～その理論と実務～』の「出版を祝う会」が5月11日（土）、京都ANAクラウンホテルで開催された。司法書士、学会関係者、母校を含めた学生時代の友人達、趙学兄のゼミ卒業生等、各界から約100名が参席。ウリ稲門会からは尹正淳会長、金君夫顧問夫妻、朴淳澈副会長夫妻、崔相敦副会長夫妻、都星学学兄が東京からお祝いに駆け付けた他、名古屋から趙承来夫妻、鄭鐘英学兄も参加。午後12時半から約3時間、多くの来賓が熱のこもったスピーチを繰り広げ、大盛況であった。ウリ稲門会の装花が会場に華を添え、また祝電も披露された。

趙慶済学兄は68年政経学部経済学科入学（73年卒）、84年に司法書士事務所を開設、以後、94年に京大大学院法学研究科修士修了、05年から10年間立命館大学法学部の大学院の法学研究科で非常勤講師を務め、趙ゼミで多数のゼミ生を輩出。一方、86年に「定住外国人と家族法」研究会を結成、現在に至るまで会でのリーダーの役割を担い、多数の著書を出版、現在は日本司法書士連合会の各種委員会の役職を担っている。4年ほど前、ウ

リ稲門会の納涼会・奨学金授与式に出席し、講演を行い、当会諸氏と旧交を温めている。

『「在日」の相続法～その理論と実務～』は趙学兄がリーダーシップを取り1986年から始めた「定住外国人と家族法」研究会での長年の研鑽の集大成、マスターピースである。氏の2年後輩にあたる姜尚中氏も推薦者の一人として絶賛、この分野における必須の書として比類なき評価を得ている。本書は、「在日」を歴史の変遷、国籍、在留資格の視点から定義する一方、私達「在日」が死亡した際に法的な権利・義務が誰に継承されるのか、これらに関連した問題点と解決・糸口を提示してくれる。専門書であると同時に実務書でもある。コラムで統計や説明が加えられるなど工夫がみられ、「在日」に関する多様な理解にも役立つ。

相続の問題は、本国法の適用となり得る在日の場合、他人事でない。是非一読を勧めたい（本書は当会で一冊購入、母校の中央図書館に寄贈、納入されることとなった）。

（文責 朴淳澈）

『呂運亨評伝』全4巻完結す

大正デモクラシーの旗手、吉野作造（東京帝大教授）をして「その人格に於いて、その見識に於いて、稀にみる尊敬すべき人物」と言わしめた呂運亨。

開放直後、朝鮮で最も民衆から信頼を集めていた政治家は呂運亨であった。それは日帝統治下の末期、建国準備委員会を立ち上げ、その建国準備委員会が民衆から圧倒的に支持されていたことからわかる。朝鮮総督府から朝鮮の行政権の移譲を受けて、9月7日朝鮮人民共和国の建国宣言をするも、進駐してきた連合軍（実質的に米軍）が軍政実施を宣言したことから瓦解。その後1947年7月、呂運亨は左右合作に奔走する中、志半ばにして暗殺されてしまった。その後、南北の分断体制が続き、韓国は軍事独裁政権が続く中、呂運亨の思想と行動を研究すること自体が少なくなっていった。ところが、分断体制が長く続くほどに、「呂運亨先生が生きていたなら……」と民衆の心の中に生き続けてきたのである。

本国ですら研究が進まない現状の中、ウリ稲門会顧問の姜徳相先生が、このたび『呂運亨評伝』（全4巻）を完結させた。本国での研究を越えた水準である本書は、韓国でも高い評価を受け、韓国語版の出版も企画されているという。昨年来の南北首脳会談の開催、朝米首脳会談の開催など、韓半島情勢の急展開の中、分断時代を克服する思想として、呂運亨の思想と行動が見直されている時代である。呂運亨の思想を知らずして、統一は語れないということか。

40年の歳月をかけて構想し書き上げた『呂運亨評伝』は姜徳相先生のライフワークともいえる。姜徳相先生は80年代後半になるが、「まだまだやりたい仕事がある」という。先生のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。

姜徳相 カンドクサン 新幹社

呂運亨 評伝4

日帝末期 暗黒時代の灯として

朝鮮の独立に人生をかけた運動家・呂運亨
朝鮮の独立・統一は呂運亨の思想の再評価をもって始まるべきである。

全4巻完結
呂運亨評伝

新幹社 定価●本体価格 4000 円＋税

呂運亨評伝（全4巻）

- ① 朝鮮三・一独立運動（2002年発行）
- ② 上海臨時政府（2005年発行）
- ③ 中国国民革命の友として（2018年発行）
- ④ 日帝末期暗黒時代の灯として（2019年7月10日発売予定）

在日同胞が経営している「新幹社」より発行されており、1巻、2巻は現在品切れ状態であるが、全4巻完結を機に増刷予定のことです。



編集後記 バンクシー 知ってる？

バンクシーが描いたかもしれないねずみの絵が東京で見つかり、いっとき一部で「騒然」となりました。「わかってる」体（てい）を装うため、急いで揃えたのでしょうか。ある大手の書店では、バンクシーの作品集（街中に描かれた彼のグラフィティの写真集）がたくさん並べられているのを見かけました。

さかのぼること10年、2009年にロンドンを訪れた際、テートモダン（かの地の現代美術館）で私はこの作品集を購入しています。表紙を見て彼のスタンスは一目瞭然。正体を明かさずグラフィ的に軽やかに異議を申し立てる姿がカッコいい。イギリスはブリストルのバンド、マッシュ・アタックの関係者が正体だとも噂されています。

昨年の秋、バンクシーはこんなこともしました。オークションにかかった自身の絵に、シュ

レッダーがかかるよう仕掛けを作っておいて、1億5千万で落札されるや、公衆の面前でシュレッダー。アートを投資の対象とする者たちを笑い飛ばしたのです。

そして件の書店には、バンクシー作品集の3倍くらいのスペースを使って平積みしている本がありました。ツルツルとした頭の、日本を代表するファシストでありレイシストが書いたあの「トンデモ」本です。ついこの間も、その本の出版社社長まで登場人物となりながら物議のタネになっていました。反戦と多様性の尊重を主要なメッセージとするバンクシーとはまさしく正反対。

同じ店舗で同時にこの両者をフューチャーするなんて、この書店は馬鹿なのか。儲かればなんでもいいのか。その両方なのか。そういえば、もう1冊スペースを取っている本がありました。梶井基次郎の「檸檬」です。小説の中に京都にあるその店が出てくるからでしょうね。ど

ちらにしろ。そのあまりの見識のなさや節操のなさは呆れ果てるほどに「見事」です。ねえ丸善さん。多分、バンクシーは腹を抱えて笑っているでしょう。

<編集部/朴魯善>



会計報告

● 収支報告

2018年4月1日～2019年3月31日

収入の部 (A)	2,978,119 (円)
前年度繰越金	1,243,786
イベント会費	201,353
年会費	103,000
次年度会費預り	50,000
賛助金	1,365,000
次年度賛助金預り	10,000
雑収入	10,220
払込手数料	▲ 5,240
支出の部 (B)	1,119,583
会議費	85,934
会報等印刷費	335,575
慶弔費	0
イベント補助費	408,078
交通費	0
通信事務費	289,996
収支 (A-B)	1,858,536
三菱UFJ銀行残高	1,198,446
ゆうちょ銀行残高	660,090

● 年会費 5000 円と賛助金のお願い

2017年からゆうちょ銀行の払込取扱票による送金手数料は会負担となりました。

一般の金融機関ATMからの送金もできます。ATMからの送金時の支店名は「ゼロイチキョウ」と入力してください。

当会の運営はすべて皆さまのボランティア、年会費、賛助金で成り立っております。

皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

● 年会費・賛助金・ご芳名

2018年4月～2019年3月 (敬称略)

徐東湖	220,000	邊彰三	20,000
梁直基	205,000	李善淙	10,000
金君夫	205,000	朴淳徹	10,000
李春夫	150,000	曹朝鉉	10,000
李春雄	105,000	薛海潤	10,000
呉世一	70,000	康泰鎮	5,000
康玟植	70,000	金振爾	5,000
琴栄吉	50,000	徐富男	5,000
河相淳	50,000	全徳烈	5,000
崔相敦	50,000	朴魯善	5,000
金明煥	50,000	金協一	5,000
李宇海	45,000	金哲敏	5,000
尹正淳	30,000	梁柄龍	3,000
朴平造	30,000	合計	1,538,000
李起夏	25,000		
安昌煥	25,000		
文一陳	20,000		
車剛一	20,000		
都星学	20,000		

2019年3月入金いただいた今年度分は、2019年度分として計上しています。

銀行名 ゆうちょ銀行
支店名 019 (ゼロイチキョウ)
預金科目 当座預金
口座番号 0037085
口座名義 ワセダダイガクウリトオモンカイ
(送金名義は会が認識できる名義でお願いします)



2019年在日早慶親善ゴルフ大会実施要項

9月26日 (木)

筑波カントリークラブ

開催日	2019年9月26 (木)
会場	筑波カントリークラブ (OUT・IN 各8:36 より各4組) TEL : 0297-58-1515 http://www.tsukuba-cc.co.jp/
定員	32名 (8組)
集合	現地クラブハウス (8時9分まで集合)
移動手段	「つくばエクスプレス」を推薦 秋葉原駅、7時11分もしくは6時43分発を利用
パーティ会場	焼肉「ことえん」 17時頃から開宴 JR西日暮里駅、千代田線 西日暮里駅2番出口1分、 舍人ライナー 西日暮里駅 5分 TEL : 03-6806-8638 http://www.kotoen.jp/
参加資格者	早稲田大学ならびに慶応大学在校生、OB該当する方、 もしくは、その関係者、知人、友人、夫人、子弟、その他
協議方法	チーム戦：各校65歳以上上位2名と65歳未満上位2名の合計 グロススコアにて決定 個人戦：ダブルペリア方式

賞位と賞品	チーム優勝杯 (持ち回り) 個人戦の賞品は、参加者が持参した協賛品で代用します。
費用	プレー費 16,258円/一人 (各自、フロントにて清算) (含む：プレー代、キャディ代、昼食代)
パーティ費	6,000円/一人
キャンセル時	9月9日までに、その旨を通知ください。 その際、代理の方を指名されることも許可いたします。 一度申込をされて、9月10日以降のキャンセルした方は、 参加費 (6,000円) を徴収させていただきます。
注意事項	原則、全員が「つくばエクスプレス」利用とします。 9月22日 (金) までに、キャディバッグ、ポストンバッグ、 その他を宅配便で発送してください。(9月25日必着)
協賛依頼	一人、1個は協賛品を持参ください。個人賞品に換えます。 協賛金も募っています。 金額上限 (5万円/人 以下)
連絡先	玄 東實 : 090-6161-3300 安 昌煥 (安本 昌煥) : 090-3105-6547